

【ねがいましては】

令和元年6月25日

KYOWA SCHOOL

第344号

「加点式」

前回の吉田松陰さんが行っていた自由な学び。では現在の学校であったら、どのようなスタイルを描けば良いのでしょうか。もし評価をちょっぴり利用することができるのなら、加点式が良いと思います。現テスト体系ですと100点満点が用意され、そこから間違えた分の点を引く。間違えが100点分あれば「0点」というわけです。だからテストを受ける全員が行う方法、選択問題の際、わからなければ「選択」です。「どれにしようかな、神様のいうとおり・・・」かなりの方がご経験があると思います。わからないのですから本来は「0点」なのに、減点されたくないから、「選ぶ」。たまにまぐれで当たる。

答えを書く、その際、なぜそのような答えにたどり着いたのか理由をはっきりさせて答えを書く。そのような方法が徹底できれば、どんな子でも動かざるを得なくなります。また、動かなければ加点されませんので、じっとしているままですと、何の変化もなし、つまり「0点」のまま。結論は「動」なければ成長なしです。しかも何回間違えても、それも「0点」のままですが、間違えるごとに人には多少なりとも「悔しさ」が宿ります。もうひとつ、取り組んだぞという「やった一感」が残ります。その時の真剣味が大きければ大きいほど、その子の中には大切な何かが宿っていくと思います。そうなんです。生きてやるぞという、前向きなものが残っていきます。「ちくしょー、今度は合わせてみせるぞ」・・・この時点で、他人との戦いよりも自分との戦いが優先されているかもしれません。ただ弱点としては、暗記、ただ覚えるだけの学びになるとちょっと難しい・・・。出題する側にも課題があります。センター試験が大きく見直しの時期をむかえているのも、そのためだと思います。記憶ではなく、解決法をさがす思考力・・・これこそが、生き抜くための知恵のもと。

ダメでもともと、歩みを止めずに間違えがつづく・・・。でもあきらめない・・・。このような時間の使い方の方が良いことが多いと思うのです。何よりも、間違えることに対し恐怖心が起こりにくくなります。それよりも間違えるという「行動」を評価されますから、間違えが評価になります。

英語などはうってつけの教科になります。何かしゃべらないと相手に通じない。間違えをしゃべり続けているうちに、そのうちに相手が何か反応をし始める。それをきっかけとし、次のことばを浮かべじゃべる・・・。また何か反応がある。その繰り返しは何百個集まって、やがて相手の気持ちがわかるようになる。このような時にはこのようにしゃべるのだな・・・。留学等でひとりポーンと放り出されたときには、否応なくそのように学んでいくしかないわけです。生きてゆくためには避けて通れない現場です。

毎回、中学校の定期テストが近づくと思うことがあります。各教科に学校からの宿題があり、全員に配られている問題集の〇〇ページまでやってきなさいというものです。提出はテスト当日・・・。このような宿題が多く見られます。すると、皆一応にそれのみに取り組み始めます。質問できる子はそれでも救いはありますが、それ以前、課題があまりに多すぎて、質問どころではない子もいます。そうすると、前向きどころの話ではありません。私の一言、「答え写して良いよ・・・。」ルール違反なことはわかっていますが、そこは皆まじめさんたち、答えを写す行為は「悪いこと」と映るせいか、なかなか積極的にできません。そこで私から「先生が責任とるから写して良いよ・・・。」

本来の学びとは、階段を上って上って、そこから味わった疲れとともにじわっとくる達成感と発見です。「そうかそんな解き方もあったんだ・・・。」

どんなに多くの時間を費やしても、学びとは、自身、深い感動とさらに先へ行くぞと言う前向きがしっかり残っていることだと思います。その気持ちを伝える場所が、本来「学校」という場なのかもしれません。

政府がかかえるこれからの日本をどうしてゆくか、最低でも不景気にはできない。そんなことになったら政権が危ない。だから世界に負けない国家作りをしよう。そのためには世界でしっかりと戦える人材づくりをせねば・・・。それにはまず学力だ。OECDなどが行っている世界共通テストなどを利用しながら、このままの学力では、日本は経済力がなくなる。日本を他の国々と比べることで危機感をあおる。成績さえ良ければ、有名大学さえ出ていれば、大企業にさえ就職できたら・・・。ここで置き去りになっているのが、学びから来る「感動」です。成績至上主義が造り上げた結果優先が、子どもたちの学びからの感動、「わかったー！」を取り上げているような気がいたします。勉強→競争が当然な気持ちを与えるようになってしまった以上、残念でなりません。そしてもうひとつ、失われてしまったのが「人柄」です。ひとがら→こころです。他人を蹴落としてでも勝たねばならない勉強の世界、知らぬ間に、人柄の重要性が後ろへと追いやられているような気がいたします。

今や日本は結構な観光立国になろうとしています。その理由のひとつに「おもてなし」があると思っています。おもてなしのこころは、相手を敬うこと。自分は一旦ここに置いておいて、目の前の方に想いをつくすこと。「えっ」それを感じた外国の方々は、おそらく間違いなく「リピーター」になるでしょう。このようにして思いやりや優しさは、人の心を温めてくれます。忘れてはならないもの・・・今一度取り戻しましょう。そしてゆっくり加点いたしましょう。